

# 台湾の革新的リノベーション事業

## —保存・活用される歴史的建造物—

本稿では、近年注目されている、台湾の近代リノベーション事業を取り上げ、日本との違い、進歩の差を明らかにする。①国民性、②歴史的背景、③政府の支援、④文化的要素、この4つの要素が日本と台湾とのリノベーション事業の進歩の違いを生んでいることが明らかになった。また、日本の課題点として、利益中心となり、本来の産業文化遺産の価値の活用という目的からそれてしまう可能性はないのかという懸念点や、費用面、建築や設備の専門知識が必要だが、そのような専門家の不足が考えられる。しかし、国民意識として浸透はしていないものの「近代リノベーション事業」は日本でも着実に注目されている。その中で今後のリノベーション事業の展望として、歴史的建造物を活用したリノベーション事業の市場規模の拡大、バリアフリー化に伴う一般住宅の市場拡大、AIを用いた高度な技術を利用したリノベーション事業の技術進化、リノベーション事業の持続可能性が考えられる。このように、台湾と日本でリノベーション事業の進歩に差はあるものの、着実に成長している。今後世界的にリノベーション事業がさらなる発展し、浸透することを期待する。